

新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

体験学習会「川の生き物探検隊」開催！インターンシップ生と「Biome」も大活躍！

8月26日(土)、「鏡川環境保全の会(鏡川漁業協同組合)」が主催する体験学習会「川の生き物探検隊」が開催されました！市内の親子15組30名を対象に、鏡川での水生生物採集や、採集した水生生物等の観察会、アユの塩焼きなどの昼食会を行いました。また、スマホアプリ「Biome」を活用し、水生生物を判定しながら、アプリ上で鏡川流域のいきもの情報を記録しました！



まず、物部川漁業協同組合の松浦組合長から、川遊びや川の生態系についての講演がありました。



いよいよ鏡川に入って、水生生物を採集！網で草をガサガサしたり、箱メガネで水中をのぞいたりしながら、子どもも大人も夢中になっていきものを捕まえていました！



「Biome」を使って水槽の水生生物を撮影すると、すぐに種を判定でき、生息時期や分布図などの情報が分かるため、いきもの観察がさらに充実しました！

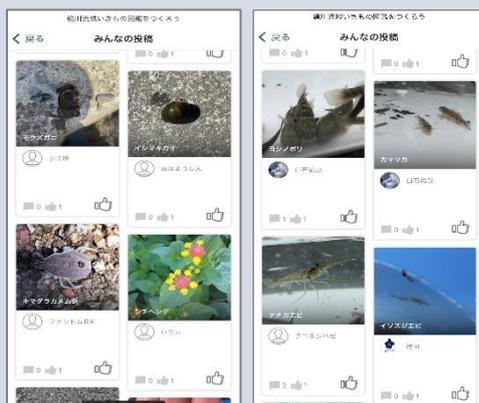


捕まえた水生生物や魚を水槽に入れて、観察会を行いました！カニやエビなど、様々ないきものが集まりました。



昼食は、鏡川で獲れた天然アユの塩焼きやお弁当！鏡川漁業協同組合の皆さんや、実習で参加していた高知大学農林海洋学部生が丁寧にアユを焼いてくれました。身がほくほくで美味しく、大きくて食べ応えがありました！

「Biome」のいきものクエスト「鏡川流域いきもの図鑑をつくらう」は8月31日(木)まで実施！みんなで図鑑を作りませんか？



「川の生き物探検隊」でも、テナガエビやヨシノボリなど、鏡川の水生生物が投稿されました！

「夏休み最後の思い出を作りたい！」「まだ自由研究が終わっていない！」という方々、ぜひ「Biome」を使って鏡川流域のいきものに触れ、鏡川流域の自然を楽しみ尽くしましょう！



新エネルギー・環境政策課で研修中のインターンシップ生・山下さん(高知大学農林海洋学部3年生)。子どもたちと一緒に「Biome」を使い、生き物や植物の写真を投稿しながら、いきもの観察を楽しんでいました！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android